

避難生活に優しい防災トイレを製作

特色のある内容

平成20年度の山科区総合防災訓練は、大塚小学校で実施されました。

大塚学区の総合防災訓練と合同で開催することとなり、学区民が主体となって災害発生直後からの避難所の運営や、組織的な災害対応と実践的な訓練を行いました。

中でも、「防災用品展示」コーナーは参加者の関心が高く、自主防災会や消防分団が手作りした2基の「簡易トイレ」は区民の注目を集めました。

『避難生活では「トイレが気持ちよくできる」ことが大切や。』とは、阪神・淡路大震災体験者の感想。

コンパネを使用した折りたたみ式のトイレはまるでマジックを見ているように素早く組み立てられ、ダンボール箱を利用したトイレは重量級の方が勢いよく座ってもビクともしない頑丈さ。

大塚学区では、今後も、竹や廃材等を利用した「担架」や、震災時に用水路を堰き止める「資器材」等を独自に製作し、「災害に強く、避難生活に優しいまち」を目指します。



特記事項

- 災害時には、断水等で水洗トイレが使用出来ないことが予想されることから、誰でもが簡単に組立てられる「防災トイレ」を製作出来ないものかと、考えた結果「簡易型トイレ」の自作に至りました。
- コンパネを使用した折りたたみ式は、避難生活に優しく、蝶つがいを使用することにより、ワンタッチで展開し、収納時には全く場所をとりません。また、不用となったダンボール箱（みかん、りんご等）を二重にすることにより、体重の重い人でも丈夫な頑丈さです。
- これから更に軽量で、簡単に組み立てられるトイレの囲い等を製作して、何時災害があっても「使用可」にしたいと計画中です。

地下水を使用したバケツリレー

特色のある内容

平成20年度は下京区総合防災訓練を崇仁小学校及び鴨川など崇仁学区内で大々的に実施しました。

そのなかでも、一時避難したうるおい館（崇仁デイサービスセンター、コミュニティセンター等の合築施設、平成20年3月23日竣工）前には、地下水を汲み上げる手動ポンプも新たに設置され、それを使ってのバケツリレーでは、崇仁学区自主防災会をはじめ、学区民とともに大変有効な消火訓練が実施できました。



特記事項

- 新しく設置された手動ポンプを学区民の多くの人にその存在を知ってもらったことにまず、大きな意義を感じています。

また、改めて子供からお年寄りまでみんなが協力して、いち早く「小さな火」のうちに消火をしていくかが重要であると再認識しました。

- 今回の手動ポンプは思いのほか力が必要で、重労働であることがわかったので、手動ポンプを担当する者は順次交代していくことが大切であると感じました。

同時多発火災の発生に備えて

特色のある内容

太秦学区自主防災部では、大地震発生時の同時多発火災の発生に備え、学区内の各地にある自然水利を活用した初期消火訓練を「まちなか訓練」と名付けて実施しています。

これは、河川・プール・防火水槽等を水源として行うバケツリレー訓練で学区内の10箇所を同時刻に一斉に行い、大地震発生時に消防隊の到着が遅れる場合に備えています。



特記事項

- 複数の場所で同時に訓練を行うため、指導員の確保が困難です。
- 水源に使用するバケツは、プラスチック製より金物のバケツの方が汲み上げやすいです。
- 普段は気付かない自然水利の重要性を住民にアピールできます。

子供バケツリレー

特色のある内容

平成18年度に実施された川岡学区自主防災会総合防災訓練では、小学生だけの参加プログラムが計画・実施されました。

総合防災訓練に参加した川岡小学校の生徒50名が、大人たちと一緒に、避難訓練，消火訓練，救出・救護訓練，給食・給水訓練等の各種訓練を体験した後，小学生だけで消火訓練（バケツリレー）を実施しました。



特記事項

- 川岡学区自治連合会においては、家庭や地域のつながりの重要性を認識し、近年、学区の子供たちが参加できる事業を積極的に実施することで、地域コミュニティを高めて来ました。

そのような中で、川岡学区自主防災会においては、PTAをはじめとした自治連合会の各種団体との協力体制を密にして、防災行事への小学生の参加を積極的に奨励しています。

- 川岡学区では、総合防災訓練だけでなく、防火見回りや消火実験会などの様々な防災行事へ、これからも「子供たち」に継続的に参加・協力を呼びかけて行く予定です。

訓練指導も自主防災会の手で!

特色のある内容

向島南学区自主防災会では、平成20年度総合防災訓練の計画、準備、運営、実施全てを自主防災会本部と各自主防災部の防災リーダーが中心となって学区民が自らの手で行いました。

総合防災訓練の準備段階での自主防災会が活発に活動することは当然として、本番での訓練指導まで実施することはあまり多くないと思います。

向島南学区自主防災会では、自らが住む地域は自らの手で守るという志の下に、より実践的な活動を行うため、防災リーダーの育成に力を入れてきた結果が、総合防災訓練で防災リーダー、自主防災会本部役員の防災訓練指導という姿になって現れたものだと考えています。

今後、防災訓練の種別の変更や実施方法の改善に取り組んでいきたいと考えています。



特記事項

- 総合防災訓練実施時に、防災リーダーや自主防災会本部役員が訓練指導まで行うためには、訓練の目的や防災知識、効果的な指導方法などを身につける必要があります。自主防災会の年間運営計画にしっかりとリーダー研修、事前訓練、準備期間を組み込んで自主防災活動を年間を通じて活発に行っていく必要があります。
- 多くの労力が、必要になりますが「自らの地域は自らの手で守る」という住民の地域を愛する気持ちが根付いていけば、どの自主防災会でも活動が活性化すると思います。